

2 教育方針と経営計画

| | 基本方針、教育指針、中期目標 | 中期計画 |
|--------------------|---|---|
| 本校の基本方針 | <ul style="list-style-type: none"> ・6年一貫教育を推進し、2-2-2制に基づく中等教育の新たな発展と創造を目指し、全国の中高一貫教育をリードする。 ・「自由・自主・自立」をめざす個性尊重の教育を進め、自己探求能力にすぐれ、市民的素養を備えた生徒の育成に努める。 | |
| 2-2-2制に基づく6年一貫教育指針 | <ul style="list-style-type: none"> 1・2年: 周囲への依存と個の萌芽期 → 基本的学力と学習の基本的方法の習得を徹底させる 3・4年: 個の発見と模索・探求期 → 自主的・体験的学習に基づく幅広い学力を習得させる 5・6年: 個の形成と自立への展望期 → 個性・能力・進路に応じた学力の習得と自立した人格形成を支援する | |
| 教育目標・計画 | <ul style="list-style-type: none"> ・自由で自立した人格の育成と社会的責任の自覚を養う。 ・生徒の多様な能力に対応した教育を行うと同時に、個性を尊重しつつ学力を伸ばす。 ・SSH校として、大学の協力を得ながら新たな研究開発を推進する。 ・大学及び附属学校園と連携し、先導的な中高一貫教育を進めると共に、各校種間の一貫教育・接続教育を進める。 ・安全で安心な教育環境を整備し、安全・健康教育を進める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自由、自主、自立の精神育成の課題を、シティズンシップ育成の視点から追求し、実践する。生徒の自主活動を保障・育成する。生徒の適性を尊重しつつ、進路指導体制を強化する。 ・2-2-2制に基づいた先導的な中高一貫教育を推進し、各段階の教育指針に応じた学力の定着をはかる。 ・SSH校として自然科学リテラシーを基盤とするリベラルアーツを育成するとともに、高大接続教育を進める。 ・「ユネスコ協同学校プロジェクトネットワーク」を活用して、アジア・オセアニア地区の学校を中心に交流を行う。 ・大学及び教育システム研究開発センター、附属学校園と連携しつつ、カリキュラム開発を図ると共に、先導的な中高一貫教育を実践する。 ・幼稚園から大学までの教育課程を視野に、各校種間の一貫教育・接続教育を推進する。 ・安全衛生管理、情報管理体制を整備し、防災・防犯教育を進めると共に、健康相談体制を強化する。 |
| 経営目標・計画 | <ul style="list-style-type: none"> ・国立大学法人附属学校として、学長のリーダーシップのもと大学と連携した学校マネジメントを推進する。 ・機能的な学校運営を行うと共に、教職員の同僚性及び職能の向上に努める。 ・社会と世界に開かれた学校づくりを進める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・附属学校部の指導のもと、法人化に基づく、各種計画・評価システムの実施、財務・労務改革、安全対策等を推進する。 ・教職員の同僚性(職業倫理に基づく協力体制)を強化し、学校運営体制の改善を図る。また、人材育成プログラムを確立する。 ・入学適性検査をはじめとする各種情報の公開に努め、説明責任の達成に努める。 ・保護者等との協力関係を強化すると共に、大学と連携した国際交流事業を推進する。 |

3 自己評価の基準

年度計画の実施状況（達成度）に対し、根拠資料をもとに判断し、次のとおりA～Dで判断する。

- A：達成状況が非常に優れている
- B：達成状況が良好である
- C：達成状況がやや不十分である
- D：達成状況が不十分である

なお、外的要因や不可抗力等により実施できなかった場合は、「F」をつける事がある。

4 学校経営についての評価

2021年度 学校経営評価

※【 】は、関連する「第三期中期目標(戦略的中期目標)」の項目番号

I 教育に関する目標・計画

[1] 生徒指導計画

| 中期目標 | 中期計画 | 2021年度計画 | 計画達成に向けての方策 | | 担当部署 | |
|------|---|---|---|---|------|------------------------------|
| 1 | 自由、自主、自立の精神を、シティズンシップ育成の視点から追求し、実践する。 【4-2-15】 | いじめ防止の取り組みや安全教育の充実を図り、生徒が安心して学校生活を送ることができるよう支援する。 | ・「学校生活についてのハンドブック」を活用して、学校生活のルールや公共のルール、マナーについての指導を徹底させる。 ・スマートフォン、携帯電話の使用については、GIGAスクールにふさわしい情報モラル教育を行い、 <u>学校としての共通理解を図りながら新たなルールづくりを進める。</u> ・公共のルールやマナーの指導を各学年、外部機関と連携して実施する。生徒の | B | B | 各学年 生徒指導 |
| | | 生徒の自治による自主活動を支援し、学校生活の充実を図る。 | ・生徒会執行委員会には、生徒の自主活動のリーダーであることを意識づけるよう促す指導を行い、各部会の活動が円滑に進むよう支援を行う。 ・学園祭運営委員会の活動を組織的に支援し、第77回学園祭を滞りなく実施することに努める。 | B | | |
| | | 課外活動等を通じて、学年集団づくりに努めると共にリーダーの育成を目指す。 | ・生徒の自主活動としてのクラブを支援するために、活動のルールを確認し、 <u>外部人材の活用を積極的に進める。</u> ・学校行事を円滑に進めるとともに、学年の各種リーダー育成を図る。 ・3年スキー行事、5年修学旅行を6年間の「節目」行事と位置付け、生徒の自主性を尊重しつつ進める。 ・ <u>社会で様々な活動に取り組む人々や世界の人々とのつながりの機会を設けることで、多様な学びへの挑戦、活動を支援する。</u> | B | B | 各学年 生徒指導 研究 学校経営委員会 |
| | | 対話を重視し、それぞれの生徒の状況をふまえていねいな対応に努める。 | ・全教員が生徒との対話時間の確保に努めるとともに、4月と10月の「面談期間」を通じて、担任の生徒状況把握を深める取り組みを継続する。 ・特に重点的な支援、指導の必要な生徒に対して、担任会における養護教諭やスクールカウンセラー、スクールアドバイザーとの連携の下、教職員間での情報共有を図り、適切な対応が取れるように努める。 ・外部の関係機関との連携を強化し、問題となる事象や行動を未然に防止するように、または適切な事後対応ができるように努める。 | B | | |

[2] 進路指導計画

| 中期目標 | 中期計画 | 2021年度計画 | 計画達成に向けての方策 | | 担当部署 | |
|------------------------------------|--|------------------------------------|---|-------------------------|------|-------------------------|
| 5 | 生徒の適性を尊重しつつ、進路指導体制を強化する。【4-2-13】 | 生徒のキャリア意識の形成を重視した6年一貫進路指導を計画・実施する。 | ・生徒のキャリア意識の形成を重視し、VGを3年から6年で実施し、ガイダンスや学修成果のアセスメントを実施し、キャリア意識形成を支援する。 | A | A | 各学年 進路指導 |
| | | 進路に関するカウンセリング体制を充実させる。 | ・大学等進学についての進路相談を随時行う。 ・デジタルポートフォリオを試行・利用し、 <u>進路実現に役立てる。</u> ・進路指導部、6年担任合同の進路指導会議を年3回実施する。 | B | | |
| | | 進路に関する資料を整理し、情報を的確に提供する。 | ・進路情報の収集に努め、生徒に対する提供を適切に行うと共に、進路関係の情報をWeb上に公開し、進路学習に活用する。 ・大学入学共通テスト及び推薦入試の説明会を、5・6年向けに実施する。生徒・保護者への進路指導に関する事業の周知と、情報の提供を4年から6年の学年PTA等で丁寧に行う。 ・新しい調査書への運用を、教務部や学年と連携しながら円滑に行う。 ・新制度入試への改革情報を収集し、全教員および生徒・保護者へ周知する。 ・ <u>学校推薦型選抜や総合型推薦に対応するため、進路補佐員を新たに雇用し、進路に関する資料整備を早急し、資料整理も積極的に行う。</u> | B | B | 5・6年 進路指導 学校経営委員会 |
| 本学および他の大学と高大連携を推進する。また、企業との連携を進める。 | ・学年と協力して本学との「PICASSO」を円滑に進める。 ・各大学等や業者との入試に関する連携を進める。 ・企業等と連携して、探究活動の新たな取組を進め、キャリア教育の日常的な実践研究を進める。 | A | A | 5・6年 進路指導 教育課程委員会 | | |

[3] 学習指導計画

| 中期目標 | 中期計画 | 2021年度計画 | 計画達成に向けての方策 | | 担当部署 | |
|------|---|---|---|---|------|------------------------------|
| 8 | 2・2-2制に基づいた先導的な中高一貫教育及び理数教育を推進する。各段階の教育指針に応じた学力の定着をはかる。【4-2-13】 | 1・2年では、「65分」の枠組みを活用し、基礎基本の習得と共に、基本的な学習習慣の徹底を図る。 | ・授業にとりくむ姿勢が確実に定着するよう指導し、各教科と連携して学習補充を適宜行うなど、基礎学力の向上を図る。 ・家庭での学習習慣が定着するよう、保護者と連携して指導する。 ・「探究入門Ⅰ」「探究入門Ⅱ」「自己探究」等の学習を大学生や大学院生の補助の下にスムーズに取り組めるよう支援する。 ・HRや道徳では、他者理解や正しい自己肯定感を育て、よりよいコミュニケーションを取ることができるよう態度や能力を養成する。 | B | A | 1・2年 |
| | | 3・4年では、「65分」の枠組みを生かした主体的な学習を組織し、総合的・応用的な学力への飛躍を目指す。 | ・授業に対して、粘り強く、また主体的に取り組む姿勢を涵養するとともに、対話や議論を尊重し、協働して問題を探究する学習集団を育成する。 ・SSH、国際交流をはじめとする課外の学習プログラムへの積極的な参加を促し、自らの知見をひろげる一助となるよう支援する。 ・成績不振や特別な支援が必要な生徒に学力定着のための支援を進める。 ・SDGsを意識して世界の諸問題に目を向け、個性を尊重し、違いを受容する集団形成と規範意識やマナーの向上を意識し、道徳の授業を展開する。 | B | | |
| 10 | 5・6年では、個に応じた学習目標を明確にさせると共に、「65分」の枠組みを生かした質の高い学びをめざし、幅広い学力の習得を図る。 | 5・6年では、個に応じた学習目標を明確にさせると共に、「65分」の枠組みを生かした質の高い学びをめざし、幅広い学力の習得を図る。 | ・日々の授業でもともに学ぶことを大切にするとともに、自主的自律的学習習慣を身につけさせるために支援する。 ・SSH、国際交流、地域貢献など課外の学習プログラムへの参加を促すこと、またHRや各種の教育プログラムの実施を通じて、「自己」「集団」「社会」との関わりについて思索し、自立的な主権者と育つよう支援する。 ・卒業後の進路選択に必要な力を身につけるために、個々の生徒の学力に応じた | A | A | 5・6年 |
| | | 文理統合的な視点の獲得と探究的な学びの実現をめざす総合学習の実践を深める。 | ・1、2年「探究入門」では探究活動の基盤となる姿勢やスキルを身につけることをめざす。 ・3年「探究基礎」、4年「基盤探究Ⅰ」では、文理統合的な視点の獲得をめざす探究活動を展開する。 | B | | |
| 12 | 新校務システムのさらなる改善と活用を図り、生徒個人の様々な情報を一元的に管理できるシステムの構築をめざす。またGIGAスクール構想に資するICT活用策の構築と試行を行う。さらに、ライブラリーの学習・情報センターとしての機能強化を行 | 新校務システムのさらなる改善と活用を図り、生徒個人の様々な情報を一元的に管理できるシステムの構築をめざす。またGIGAスクール構想に資するICT活用策の構築と試行を行う。さらに、ライブラリーの学習・情報センターとしての機能強化を行 | ・校務システムに新たに加わる出欠簿システムの適切な運用によって、生徒個人の様々な情報を一元的に管理し、学校と保護者との連携を深め、教員の働き方改革に資する「チーム学校」のシステム構築を図る。 ・GIGAスクール構想のもとで、1人1台端末を活用し、探究活動のデジタルポートフォリオやスタディサプリを利用した「自己探究」の実践を通じて、新たに学習スタイルの構築に向けた実践研究に取組む。 ・ライブラリーを学習情報センターとして学習支援できるよう機能強化を進める。そのため、学術情報センターや公立図書館ともネットワークづくりを進め、生徒の学 | B | B | 図書情報 教務 学校経営委員会 各教科 |

[4] 教育研究・実習計画(大学、附属学校園連携を含む)

| 中期目標 | 中期計画 | 2021年度計画 | 計画達成に向けての方策 | | 担当部署 |
|------|------|----------|-------------|--|------|
|------|------|----------|-------------|--|------|

| | | | | | | | |
|----|--|--|--|---|----------------------------|-------------|---|
| 13 | 大学と連携し、先導的な中高一貫教育についての教育研究を行う。 | 6年一貫教育のさらなる充実に向け、SSH等の研究開発方針、ユネスコスクールの理念に基づく教育実践に取り組み、改訂カリキュラムを実践する。 【4-2-12】 | 本校のアドミッションポリシーと21世紀型学力形成の課題をふまえて、前期課程においては新カリキュラムを実施・運営する。後期課程においては過渡期のカリキュラムを適切に実施する。 | ・新カリキュラムのもと、探究活動の教材開発および実践研究を、SSH、各教科分掌、委員会等と連携し着実に進める。 ・専門家の支援を受け、3学期制の特長を生かした、定期考査に依らない評価のあり方について議論を進め、新カリキュラムでの実現を図る。 ・ICTを活用した「個別最適化学習」「自己探究」の実践を通じて、自主的、自律的な学習者を育成するために必要な支援のあり方を研究する。 | B A A | A | 学校経営委員会 教育課程委員会 教務部 |
| | | 高大接続カリキュラム開発プログラム企画運営室を中心として、PICASOコース3年目のプログラムを着実に実施する。 | 理数系教育の充実を図り、SSHプログラムを実践する。また、サイエンス研究会の活動をサポートする。 | ・大学と連携し、「基礎探究」「実践探究」の授業を開講し、生徒の探究活動を支援する。 ・PICASOルームの機能を十分に活用し、生徒の探究活動を支援する。 ・「実践探究」の成果物としての「探究アウトプット」を、「学力のみに偏らない選考基準」により適切に評価し、高大接続特別入試のあり方を検証する段階に進む。 ・第4期SSH研究の2年目の計画を確実に実施する。 ・「飛躍知」育成に資する探究活動のカリキュラム評価について、外部研究者と協働研究を行うとともに、評価のための方策を構想し、基礎資料を作成する。 ・サイエンス研究会の活動環境を整備し、各種学会、研究会への発表活動を支援する。 | A B B A A B | A B A | 学校経営委員会 教育課程委員会 学校経営委員会 SSH研究部 |
| 14 | | | ユネスコ・スクールおよびSSHのネットワークを中核として、グローバル教育をめざし、国際交流事業の体系化を図る。 | ・新型コロナウイルス感染症の流行状況をみながら、オンライン交流を視野に入れて、高校生国際会議「Asian Youth Forum」(インドネシア)を中心に、アジア諸地域の生徒との国際交流活動を進める。 ・「さくらサイエンスプラン」の指定をうけ、大学の協力を得て、科学技術ワークショップNara Sakura Science Campの企画実施を行う。 ・トビタテ留学ジャパンなどの留学情報の有効な広報システムを検討し、実施する。国際交流リーフレットを発行する。 | A A B | A A | 学校経営委員会 研究部 |
| | | | 大学と連携して、全国的な教育研究・教員研修拠点校として、また本校教員の研究活動を生かした公開研究会のあり方について再検討する。 | ・学校改革にともなうテーマを中心に教員研修を充実させるとともに、教員同士の学びあいを図る研修方式をとりいれる。 ・大学と連携して、教育研究・教員研修拠点校としての役割を意識して、公開研究会を企画・運営する。 | B A | A A | 学校経営委員会 教育課程委員会 研究部 |
| 17 | 大学・理系女性教育開発共同機構及び附属学校園、教育システム研究開発センターと連携し、接続教育・一貫教育の推進に寄与する。 | 中高一貫教育の成果を発信するとともに、教育システム研究開発センターと連携し、接続教育・一貫教育の推進に寄与する。 | 理系女性教育開発共同機構と各附属学校が協力して、女子の理工系科目への興味・関心を高める研究を進める。 | ・奈良女子大学教育システム研究開発センターと連携しつつ、本校のリベラルアーツ教育研究・実践や探究活動の実践研究など、各教員の研究活動の充実を図るとともに、本校「紀要」や大学「教育システム研究」に積極的に論文を投稿するなど、外部に対してその成果を発信するように努める。 | B | B | 研究部 学校経営委員会 |
| | | | 理系女性教育開発共同機構と各附属学校が協力して、女子の理工系科目への興味・関心を高める研究を進める。 | ・奈良女子大学理系女性教育開発共同機構と附属中等教育学校の連携により、「サイエンスコロキウム」を企画し開催する。 ・理系女性教育開発共同機構が開催する各種プログラムに生徒を派遣し、生徒の研究力の向上に努める。 | A B | A | 教務部 研究部 学校経営委員会 |
| 18 | | 大学・理系女性教育開発共同機構及び附属学校園、教育システム研究開発センターと連携し、接続教育・一貫教育の推進に寄与する。 【4-2-11】 | | | | | |

[5] 安全及び健康に関する計画

| 中期目標 | 中期計画 | 2021年度計画 | 計画達成に向けての方策 | | | 担当部署 | |
|------|-----------------------------|--|---|--|------------------|--------|------------------------------------|
| 19 | 安全で安心な教育環境を整備し、安全・健康教育を進める。 | 安全衛生管理、情報管理体制を整備し、防災・防犯教育を進める。特別支援教育を定着させると共に、健康相談体制を強化する。 【4-2-15】 | ・労働基準法改正をうけ、勤務時間の適性化にむけた具体的な施策を引き続き実施する。 | ・労働時間管理の方法を改良し、残業時間の削減方策を策定する。 ・部活動将来構想WGを設置し、部活動を含む休日労働のあり方を検討し、新たな方策を構想し、実現できるところから改革に取り組む。 ・行事設定・会議運営の改善策を検討し実施する。 | C C B | C | 安全管理委員会 学校経営委員会 健康環境 |
| | | 「危機管理マニュアル」の改訂を実現し、その周知を通じて防犯・防災教育に力を入れる。 | ・「危機管理マニュアル」の改訂を実現し、その周知を通じて防犯・防災教育に力を入れる。 | ・新型コロナウイルスの感染拡大防止を引き続き徹底し、年間行事予定や学校行事を適切に実施する。 ・大規模災害に対応できるよう、学校経営委員会を中心に、安全対策上必要な改善を進め、危機管理マニュアルを更新する。 ・防災・防犯訓練及びAED研修を実施する。また、地域の避難拠点としての対応マニュアル策定に向けて検討するとともに、地域との連携を図る。 ・部活動管理マニュアルを適時に運用し、部活動管理を確実に実施する。 | A A B B | A A | 安全管理委員会 学校経営委員会 健康環境 生徒指導 |
| 20 | | | 生徒相談事業を継続すると共に、特別支援教育の校内体制を整備する。 | ・学年、生徒指導部、特別支援教育コーディネーターは、常に生徒の実態を把握し、内規に基づいた連携体制を整え、教育的ニーズに応じた適切な支援を行う。 ・保健室とカウンセリング室の機能分化を図り、特別な支援が必要な生徒に対してのより適切な支援体制を整備する。 ・教務部・学校経営委員会と連携しつつ、学習支援を行えるように、必要な内規の改訂を行い、支援体制の見直しを継続的に進行。 | A A A A | A A | 管理職 特別支援教育委員会 健康環境 |
| | | | 附属学校部コーディネーター、スクールカウンセラーや専門家の指導助言のもと、総合的な知見に基づいて、個々の生徒の「困り感」を理解し、その状況に応じた支援を行う。 | ・特別支援教育委員会において、附属学校部コーディネーター、スクールカウンセラーや専門家(スクールアドバイザー)の指導助言をもとに、個々の生徒の「困り感」を理解し、その状況に応じた支援を行う。 ・必要な生徒に個別の「教育支援計画」を作成し、有効に活用する。 ・スクールサポーターやスクールアドバイザー・外部機関と連携して、生徒の状況に応じた支援をする。 | B B B | B B | 管理職 健康環境 教務 |
| 22 | | | 「いじめ防止基本方針」に基づききめ細やかな指導を徹底し、いじめ防止のための対策を行う。 | ・いじめ防止対策会議の月例化を続け、いじめ事案の事後の見守りを図ることで、その解消にむけての取り組みを「見える」化する。 ・「アンケートの年2回実施」に加え、定期的な個人面談期間の設置、「教育相談窓口」の広報など、いじめの早期発見のための措置をとる。 | B B | B B | 管理職 特別支援教育委員会 健康環境 生徒指導 |
| | | | | | | | |

II 経営に関する目標・計画

[6] 学校運営計画

| 中期目標 | 中期計画 | 2021年度計画 | 計画達成に向けての方策 | | | 担当部署 |
|------|---|---|---|-----------------------|------------------|----------------------------------|
| 23 | 国立大学法人附属学校として、大学と連携した学校マネジメントを推進する。 【4-2-14】 | 第三期中期計画に伴う学校経営全般の基盤整備に関わる諸課題に取り組む。 | ・第三期中期計画に対応した校内組織の体制を構想し、学校運営の改善を迅速に進められる体制にむけたプランを策定する。 ・校長専任化に伴う、副校長・主幹教諭の役割分担を見直し、ガバナンス機能の強化を図る。 ・部活動将来構想WGを中心に、持続可能な部活動のあり方の検討を進め、本校の部活動の将来構想を策定し、実現可能な改革を順次進める。 ・新しい学校経営・分掌組織・特別支援体制に対応する内規の整備を行う。 ・入学前情報を一元化するとともに、出欠管理システムを導入し、校務システムとの連携によって、公正な個別最適化学習を実現する。さらに、探究活動の履修を | A A B C B | B | 管理職 学校経営委員会 |
| | | 第三期中期目標期間における評価に係る実施要項に基づき、第四期中期目標・計画の策定に向けて諸課題に取り組む。 | ・法人統合にともなう連携と特色化を前提に、「本附属学校園の将来構想」についての具体的な検討を行い、基本的な方向性と具体化のための方策を決定する。 ・教職大学院とも連携して、法人統合をみすえた、教員養成・研修の新しいセンターのあり方やその役割について検討を行い、本校の将来構想への提言をまとめる。 ・持続可能な学校運営のための目的資金のあり方の検討と、その創設を図る。 ・第四期中期計画までを見通した、校内各施設設備の補修更新を含む、新施設整備マスタープランを策定する。 | A B C C | A A C C | 管理職 学校経営委員会 管理職 学校経営委員会 |

令和3年度 第1回学校評議員会・関係者評価委員会記録

(1) 日時・場所 6月1日(火) 17:00~19:30 本校会議室

(2) 内容

- ・生徒会、学園祭運営委員会よりの報告・要望
- ・20年評価、21年計画 (学校評価アンケート、1人1台端末、PICASO、新型コロナ対策)
- ・意見交換

(3) 参加者

| | |
|---------|---------------------------|
| 学校評議員 | 平尾 京一 (富雄南中学校校長 中体連会長) |
| | 馬場 勝也 (わかくさ法律事務所) |
| | 藤田 道夫 (柳汀会会計監査) |
| | 山根 隆 (東紀寺2丁目自治会長) |
| | 植田 聖子 (卒業生元保護者) |
| 関係者評価委員 | 前田 康二 (奈良教育大) 萩原 清明 (保護者) |

(4) 意見交換

生徒の施設設備の修理要望について

- ・施設整備については優先順位が大切。生徒たちの危険につながりそうなことが優先順位高い。滑りやすい廊下は、新聞、ゴムマット対策もあり。とにかく順位をつけるのが大切
- ・生徒自身がきれいにしたいなあというアイデアを出すことが大切。たとえば、好きな、つかいたい道具を用意するとかどうですか。掃除用具の更新に生徒の意見を取り入れる工夫。
- ・生徒会が要望事項に優先順位をつけるのに、危険度や破損度、必要度をみんなで評価してもらって項目に付していけばわかりやすくなる。

評価・計画をめぐって

- ・生徒の評価で0.2ポイントレベルだが上がっていることとして、いじめ対応など人権尊重の部分が上がっている。教育活動の成果だろう。
- ・「相談できる教師がない」について、この学校はフレンドリーだとおもっていたが、この点は注意してほしい。他の学校にない特色、生徒の様子が学校の自由自主自立の校是につながる。この点を生かして、社会に貢献できる人間を育ててください。
- ・「学校に行くのが楽しい」という評価が子供で低いのも気になる。
- ・HPは更新されたが、PWがかかっているものも多く見たいと思うものがみられない点は改善を。
- ・柳汀会から様々支援をもらっている。ワクチン接種など恩返しできるようなボランティアがないか。
- ・クラブの土日制限の理由について、保護者は詳しく知らない。知らないことがマイナス評価につながっているかも。理解できると納得。もう少し丁寧に説明していただく方法がないだろうか。
- ・クロムブックはこわれやすい。公立中では先生方がお使いのタブレットのスペアがないので困っている。クロムブックはプリントアウトができない。アプリを利用している。受益者負担で一人120円。警報時はこれで。動画配信と併用。
- ・1人1台端末周辺について、大学はずっとオンライン配信をしているが大変。周辺での教え合いなどが大切だと思う。大学でも継続的に研修しながら技の交流をしたいと思っている。
- ・PICASOはすごい。大学に入るとのことについてとてもよいプログラムだと思う。ただ、今年昨年と男子がいないのは進学のこともあるのか、学び自体に男子も惹きつけるものがあると思う。